

## 新・研修講座シリーズ始動

### 教師学び工房：グロウアップ講座

#### ①子どもの学びや育ちを見取る学習評価 ②協働ワークショップ

今年度から弘前大学教職大学院主催の新たな研修講座シリーズが始動しました。その名も「教師学び工房：グロウアップ講座」です。いささか気取った響きですが、この名称には、「研修」の本来の意味である「研究」と「修養」の含意に立ち返り、参加者である教師が主語となる研修の機会を提供したいという思いを込めました。

今年度は、2日間で1セットの研修講座を2つ準備しました。1つ目は、8月9日・10月31日に開催の「明日の授業に役立てる！子どもの学びや育ちを見取る学習評価～パフォーマンス評価やルーブリックの作成・活用を踏まえた授業づくり～」です。2つ目は、7月25日・9月26日に開催の「学校を活性化する実践をつくり出す！協働ワークショップ」です。いずれも青森県教育委員会中堅教諭等資質向上研修の代替講座としても参加することができます。

まだ1つ目の学習評価編の2日目は終わっていないのですが、これまでの様子の中間報告をしたいと思います。学習評価編1日目では、近年の学習評価の研究と政策の動向を概観した後、パフォーマンス課題とルーブリックをつくるワークショップを行いました。具体的には、前者のパフォーマンス課題づくりのワークショップは、2日目（10月31日）までに実施予定の単元を1つ選び、その単元末の評価課題として用いるパフォーマンス課題（「思考・判断・表現」に該当する子どもの学びの姿を可視化するのに適した評価課題）を作成するという活動を行いました。2日目は、この評価課題を実際に実践してみて、子どもの様子から考えたことや感じたことを報告し、相互に検討する予定です。すでにこの報告書を提出された参加者から、「生徒たちはいきいきと活動しており、『新鮮な授業だった』『またこういう機会が欲しい』との声があった」といったご感想をもらっています。

2つ目の協働ワークショップ編は、主たる参加者が中堅教師であるため、新たな実践をつくり出すために勤務校の現状の強みや課題を分析する活動と、若手教師のメンターとしてどのように支援することができるのかを考える活動で構成されています。全日程を終え、参加者からは、「知識獲得⇒演習⇒勤務校での調査⇒演習という構成が、思考の流れを段階的・発展的に深化させていると実感できました」や「話し合いをする中で、自分が大切にしていることや、どうありたいと思っているのかに気付くことができた。自分の課題に対して客観的な意見や新たな見方もいただき、課題解決の方向性が明確になってきた」といった声が聞かれました。（若松 大輔）





研究主任の役割を担うようになり、「校内研を活性化させたい」という思いを強くもつようになりました。その背景には、校内研で先生方が発言を控え、活発な意見交流がされにくいという経験を幾度もしてきたことがあります。そこで、大学院での学びを基に、昨年度から校内研の活性化という課題に取り組むことにしました。場の雰囲気をやわらげたり話しやすい雰囲気を作り上げたりするため、コーヒーやお菓子を用意したり、協議の形をワークショップ型（ワールドカフェ、Big picture workshop）にしたり

と様々な工夫を施した上で、研究テーマや校内研の在り方について意見交流を行いました。

その結果、「研究授業での授業者の負担が大きい」「校内研では自分のやってみたい研究ができない」等、これまで心の中で思っていたも言い出せなかった先生方の本音、校内研の改善点が意見として出るようになりました。そこで、出されたご意見を基に、「指導案の簡略化及び作業の分業」「チームで授業づくりを行う意識」「主体的で対話的な校内研究！」を目標に校内研究を進めていくという共通理解ができました。

すべての取組がうまくいったわけでは決してなく、課題も多く残ります。しかし、多くの先生方が意見を活発に出し合い、校内研究の進め方を共に考え、改善していったというプロセスには意義があったと感じます。子どもたちに主体的・対話的で深い学びを求める前に、教師自身がそうした姿を実践し、模範的に示せるような、活発な校内研究、そして主体的で対話的な校内研究になるよう今後も研鑽を積んで参ります。

\*この実践は、本誌1ページに掲載した「グロウアップ講座②」（協働ワークショップ1日目）で報告されました。

## 研究中間報告会(2年)及びホームカミングデイを開催します

教職大学院では、在学院生が2年間で3回の教育実践研究発表を行います。その2回目である「中間報告会」を、令和5年11月11日(土)に、弘前大学教育学部会場及びZoomによるオンライン会場を併用して行います。現在の2年次院生が自身の研究テーマをもとに取組内容を報告いたします。ミドルリーダー養成コースの院生は、組織を活かして学校課題解決に取り組める教師を目指して、また、ストレートマスター院生は、教科・領域の指導を通して子供たちの資質・能力を高める教師を目指して研究に励んでいるところです。チラシも配布させていただきましたが、改めて皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【日時】 令和5年11月11日(土) 8:40~15:10 [受付] 8:20~8:35

【会場】 弘前大学教育学部& Zoomによるオンライン会場

【第1会場】 1階大教室 (主会場) 【第2会場】 2階大教室

【次第】 (1) 全体会開会 8:40~8:50 1階大教室

(2) 2年次学校教育実践・教科領域実践コース院生研究報告  
9:00~11:26 【第1会場】 1階大教室  
【第2会場】 2階大教室

(3) 2年次ミドルリーダー養成コース院生研究報告  
12:30~14:44 【第1会場】 1階大教室 【第2会場】 2階大教室

(4) 全体会開会 15:00~15:10 1階大教室

\*ホームカミングデイは、修了生及び在学院生のみ参加となります。

【申込期間】 10月2日(月)~10月31日(火)

\*お申込みフォームのURL: <https://forms.office.com/r/GzAxwYPj3L>

\*お申込みのQRコード(右のQRコードをご利用ください。)



\*中間報告会で報告される研究の内容を、本誌5~8ページで紹介しています。

新しい院生を迎えて半年が過ぎました。教職大学院では、研究者教員と実務家教員のチーム・ティーチングにより、理論と実践の往還を旨とする多様な授業が開講されています。半期の授業をふりかえり、そこから得た学びや気づき、教育への思いなどを4人の院生が綴りました。

## 院生（現職教員）が綴る

## 教職大学院の授業

館田智久子さん（ミドルリーダー養成コース1年、青森県立五所川原農林高等学校）

### 「現代の学校と教員をめぐる動向と課題」

教育を取り巻く諸問題を教育の社会性という視点（教育社会学）から考えることを通じて、これからの学校教育と教員の在り方について考察する授業です。院生で分担してテキスト各章の内容を発表した上で論点を示し、グループ協議を行うことで考察を深めていきます。私は「学校知識」と「国民国家・ナショナリズムと教育・学校」について担当しました。授業で自身の教職経験を多面的に振り返り、教育実践のあり方について課題意識を具体的に持つことができました。



「グロウアップ講座」で現場の先生方と学ぶ

### 「教育経営の課題と実践」

教育の今日的課題や教育政策と学校経営との関連性を見出し、学校経営への問題意識を明確にしていく授業です。ミドルリーダー養成コースの院生はケーススタディ発表（同僚性、教育課程、ICT活用、校内分掌）の機会をいただきました。少人数でのグループ演習、討議はオランダのオールタナティブ教育の一つである「イエナプラン教育」を彷彿させる活動でした。保護者との良い関係づくりを考えるロールプレイにも積極的に取り組みました。校種等に関わらず「魅力ある学校づくり」を担う立場として、協働のあり方を考えることができました。

\*\*\*\*\*

村井千絵美さん（ミドルリーダー養成コース1年、五所川原市立五所川原第二中学校）

### 「教育課程編成をめぐる動向と課題」

### 「教育課程の開発と実践」

「教育課程編成をめぐる動向と課題」では、教育課程を歴史や社会背景など多角的な視点で読み解き、教育課程編成の今後の在り方を見つめ直す時間となりました。修得主義と履修主義、メディア・リテラシー、学力の捉えや入試制度の課題等、協議内容も充実し、批判的思考が鍛えられたと感じています。「教育課程の開発と実践」では、カリキュラム・マネジメントに関わる様々な課題について考察しました。また、単元配列表、パフォーマンス課題とルーブリックの作成、総合的な学習の時間の学びの捉え直しを行い、実践に役立てたいと思っています。講義を通して校種間連携や教科横断的な思考を広げました。

### 「生徒指導の理論的視点と実践的視点」

### 「教育相談の理論と方法」

「生徒指導の理論的視点と実践的視点」では、生徒指導提要进行を軸に教職員の生徒指導の在り方について学びました。院生がディスカッションしたい内容、例えば不登校、いじめ、ゲーム依存など生徒指導を取り巻く諸問題を取り上げ、チーム学校としてどのように取り組んでいくべきか、実践的な視点で協議を行いました。「教育相談の理論と方法」においても、先生方の講義を通して教育相談の理論について再確認し、具体的事例から児童生徒支援について協議しました。どちらの授業においても、生徒を見る視野を広げられました。学校が担う外部機関とつなぐプラットフォームとしての役割の大切さも実感しています。



「教育相談の理論と方法」授業風景

## 成田秀斗さん（教科領域実践コース1年）

## 「インクルーシブ教育システムの理論と課題」

本講義を受けて、これまでの特別な支援を必要とする子どもたちへの認識がガラリと変わりました。そもそも、「特別」とすること自体がそういった子どもたちに対して「かわいそう」「～してあげなければ」という上の立場からの視点だと気づいたのです。そうではなく、我々と何ら変わらない人たちであるとして、共に支え合って生来していくために自分には何ができるかをもう一度考え直す必要があると思います。



「教育実践研究法」授業風景

## 「学びの様式と授業づくり」

授業づくりの新たな視点として、この授業を通してどんな力を育てたいのかを明確にすることが必要だと学びました。現在 ICT の普及により、それを生かした授業が数多く展開されていることでしょう。しかし、それを「使用」するにとどめるのではなく、「活用」したその先にどんな生徒の姿があったら良いかをイメージすることが重要だと感じました。集中実習を行っているのですが、現場でも ICT を取り入れ授業のあり方がどんどん変わっていると実感します。我々も変化に敏感になり、それを貪欲に吸収していかなければならないと感じました。

\*\*\*\*\*  
藤田 桃さん（学校教育実践コース1年）

## 「学校安全の危機管理」

私は学部時代に、養護教諭として必要な学校安全についての知識を身につけてきました。教職大学院の講義では、養護教諭と教諭それぞれの視点から、学校事故の予防や事故発生への対応についてどのように連携して取り組んでいくかを議論したことで、学びが深まったと感じています。子どもたちの安心・安全のために、学校の抱える課題について考え、学校安全におけるそれぞれの役割意識を実感できた授業でした。



「学校安全の危機管理」授業風景

## 「あおもりの教育（健康）」

弘前大学教職大学院の独自テーマ科目であるこの講義では、青森県の教育課題である「短命県返上を念頭においた健康教育」の達成のために、青森県の抱える様々な健康課題について学び、それぞれが実践に生かしていくための方法を考察しました。健康は、学習の基盤となり、生涯において自己実現を果たすために重要なものだと思います。生徒が、発達段階に合わせて自分自身の健康と向き合うために、学校と地域で連携して取り組んでいきたいと感じました。

# 私の研究—中間報告会に向けて—

**ミドルリーダー養成コース2年 安保 愛子**  
テーマ：中学年におけるケア的思考の醸成を基盤とする自治能力の向上



個・集団・地域からのケアを受け、自分の存在を肯定する土台として「安心・安全な場」を作ること、児童のよりよい人間関係と共同的な集団ができ、自治能力に繋がるのではないかとこの考えのもと研究を進めています。児童の変容に対する喜びと共に、これでよかったのかと試行錯誤する日々です。その中で、本校の先生方の理解と協力をいただけたことは心強いものでした。中間報告会では、これまでの実践研究における成果や課題について報告し、今後の取組のための考察を深めていきたいと考えています。

**ミドルリーダー養成コース2年 大池由紀子**  
テーマ：小規模の小中一貫校における教師の協働的な授業デザイン—校種を超えた異学年交流を取り入れた授業実践を通して—



授業デザインを広げるための手段として、『異学年交流の授業』を取り入れたらよいのではないかと、という仮説を立てました。しかし、異学年を交流させる場面設定だけでは、子どもにとって深まりがない学びになってしまいます。教師が「育てたい子どもの姿についてビジョンを共有すること」や「学びのつながりを意識すること」が重要であるという考えのもと、校内研修を中心に実践研究を行ってきました。実際に異学年交流の授業を行い、小・中学校の先生方に授業を参観していただいたことで明らかになった研究の成果と課題を報告します。

**ミドルリーダー養成コース2年 葛西 史生**  
テーマ：生徒の自学自習を促す教師の関わり方についての考察—個人内評価と自己評価のあり方に焦点を合わせて—

自学自習を「生徒が自ら学習を調整しながら粘り強く学習に向かうこと」と捉え、その達成に向



けて日々の実践に取り組んでいます。個人面談の場で、教師による縦断的個人内評価を行い、さらに生徒自身が自己評価を行うということを定期的に行い、そのサイクルによる生徒の変容について考察します。中間報告会ではこれまでの成果や課題等について報告し、今後の研究に生かしていきたいと思っています。

**ミドルリーダー養成コース2年 柏崎 康司**  
テーマ：よりよい学校生活に向けた行動変容—多角的な非認知能力獲得のための介入—



私は、全員が安心して授業や学校生活を送ることができる風土作りを目指し、日々の授業を通して「自己認識」「忍耐力」「他者理解」向上につながる介入プログラムの実施や質的、量的データをもとにモニタリングをしています。また、現任校の教職員、生徒、教職大学院の先生方等、数多くの方々の御協力を得て研究を推し進めることをできていることに感謝しております。中間報告会では、これまでの実践における成果や課題について報告し、さらに研究を深めていきたいと考えています。

**ミドルリーダー養成コース2年 工藤 渉太**  
テーマ：1人1台端末に対する教師の意識変容—教育活動全体での活用を通して—



子どもと向き合う時間の確保を目指して、同僚の先生方と共に1人1台端末がもつ可能性を見出したいと考えました。そのために、端末への活用意識を高める研修の在り方について研究しています。木造中学校の先生方にはお忙しい中、研修会や意識調査にご協力いただき、本当に感謝しかありません。中間報告会では、これまでの経過や現状、抱えている課題について報告させていただきたいと考えています。

**ミドルリーダー養成コース2年 佐藤 大記**  
**テーマ：病弱教育における児童生徒の自己肯定感を高めるための支援方法と教員の体制に関する研究**



研究を進めるにあたり、多様な他者との共働が自己肯定感を高めることに影響を与えると考える反面、精神疾患のある児童生徒にとって外部の他者との共働の継続が困難であることも現実的な課題の1つであると感じました。そこで枠を狭め、クラスメイト同士でPATHやTEMなど対話を重視したワークを行うことで自己理解や他者理解を深め、これまでの行動や言動を価値付けることや、目標を設定し、評価してフィードバックすることが有効であると考えました。今後も授業実践を重ね、クラスの結果につなげていきたいと考えています。

**ミドルリーダー養成コース2年 寺山 陽子**  
**テーマ：自ら学ぶ意欲を引き出す「一人ひとりに学びがある授業」づくり—少人数制で行う校内研修を通して—**



我々教員が子ども達一人ひとりに学びがある授業を積み重ねていけば、子ども達の学ぶ意欲を引き出せるのではないかと考え、研究をしています。まず教員を3つのグループに分け、気軽に授業を見合える環境づくりをしました。そして授業後の協議会で子どもの学びに焦点を絞るために、指導案の簡略化やドキュメンテーションを取り入れてきました。これまでの実践の成果や課題、進捗状況についてお伝えしたいと考えています。

**ミドルリーダー養成コース2年 雪田 聡**  
**テーマ：高校数学における学力の類型化とそれに基づく指導と評価のあり方に関する検討**

学校現場に戻ってからあっという間に半年が過ぎました。改めて昨年度の大学院での学びが大切であったと感じています。今年度は、考える時間を確保することを重視し、生徒が自分のペースで学ぶことを目指した授業を行っています。生徒の



振り返りや授業での対話からつまづきを発見して授業改善に生かしたり、思考力を問う問題を扱う授業を実践したりしています。中間報告会では、今までの実践の内容と考察や課題について発表しようと考えています。

**学校教育実践コース2年 鳥元 帆乃佳**  
**テーマ：保健室前廊下の掲示物を通した心の健康教育—「子どもの権利」の観点から—**



私は、生徒たちが自分の悩みを子どもの権利に照らして考え、問題解決に向けた行動を選択できるよう保健室前廊下の掲示物を活用して心の健康教育を行っています。前期実践では、生徒たちの意見参加を可能にする工夫を取り入れ、より生徒たちが自分事と捉えられるよう工夫しながら掲示物を作成しました。実践を通して生徒たちの様々な意見に触れることができ、私自身学びの多い前期となりました。中間発表会にむけて、前期実践の成果と課題を整理し、後期の実践に活かしていきたいと思えます。

**学校教育実践コース2年 新田 ひかり**  
**テーマ：三角ロジックを活用した国語科授業実践—根拠のある考えの形成を目指して—**



私は、論理的思考力の育成を目標に、鶴田清司「根拠・理由・主張の三点セット（三角ロジック）」を用いた研究を行っています。これまでの実習を通して、概念理解及び三角ロジックを活用した実践を行ったことで、論理的思考力が高まりつつある生徒の姿を多く見る事ができました。この過程及び成果を中間報告会で伝えていくとともに、様々な意見から学びを得、後期実習での指針を確立していく所存です。

**学校教育実践コース2年 藤田 晟雅**  
**テーマ：すべての児童が参加し、学びの楽しさを実感できる算数科の授業を目指して一授業UDの視点を中心に—**



今年度の集中実習では、「長さ」の単元のすべてを実践させていただきました。事前・事後アンケートを始め、振り返りシートや録画記録といった報告書をより良いものにできるデータを十分に集めることができ、今、その分析を行っている途中です。分析の結果が良い方向になるのか悪い方向になるのかはまだ分かりませんが、その結果に真摯に向き合って今後の取り組みに活かしていきたいです。

**教科領域実践コース2年 板垣 侑磨**  
**テーマ：「運動嫌いを減らす授業づくり」**



昨年度に行われた年次報告会での反省を受けて今年度、実習や研究に取り組んできました。今年度の実習では、学習カードを用いて生徒の変容を見とり、生徒とのコミュニケーションを大事にし、研究を進めてきました。実習校で得た学びを研究成果として皆さんに発表できるように取り組みたいと思います。中間報告会では様々な質問やご意見に期待し、それをもとにさらに研究を掘り下げ、最終報告会に向けて準備していきたいと思ひます。

**教科領域実践コース2年 猪股 由惟**  
**テーマ：小学校外国語における児童の自由な発話を促進する Small Talk の継続的実践と総括的評価**



言語活動を通してコミュニケーション能力を育成するためには、伝えたい内容及び使用する言語形式の両方を児童が自由に選択・決定することが肝要です。しかし、昨年度のパフォーマンス評価における児童の発話を分析した結果、その多くが定型化されたものであることが示されました。今年度は、この

課題を解決するために、Small Talk を毎時間実践し、その効果を2單元ごとの総括的評価により検証しています。中間報告会では、現時点での成果と課題について報告します。

**教科領域実践コース2年 瓜生 太知**  
**テーマ：生徒の興味・関心を向上させる理科授業—日常生活と関わる課題を用いることの効果について—**



昨年度の年次報告会で課題として挙げられていた部分を改善し、今年度のフィールド実習や集中実習での授業実践に取り組んできました。昨年度は日常生活の事象をそのまま課題として取り上げていましたが、今年度は日常生活の内容を用いて教科書の内容をどうかみ砕いて指導するかという点に着目しました。今回の中間報告会・最終報告会は、大学院での学びの集大成として、自分で考え、実践したことを発表したいと思っています。

**教科領域実践コース2年 古川 冬真**  
**テーマ：中学校体育授業における運動習慣の獲得を目指した授業づくり—過性運動に伴う肯定的感情に着目して—**



私は前期・集中実習の中で、毎回の体育授業で生徒にワクワクしたり、楽しいと思ってもらったりすることを目的に授業を行ってきました。生徒が相互に認め合い、教え合う授業やニュースポーツを取り入れた授業を行い、実習校の先生方だけでなく、生徒から多くの学びを得ることができました。中間発表会に向けて、今一度、自己の授業実践を見直し、生徒の振り返りなどから後期実習への改善点を見つけていきたいと思ひます。次の後期実習で、大学院での実習は最後になるため、多くの学びや経験をさせていただいた先生方や生徒の皆さんに、この2年間の感謝の気持ちを持って実習に取り組んでいきたいです。

**教科領域実践コース2年 佐藤 陽奈子**  
テーマ：児童の動機づけを高める CLIL 実践—自己決定理論を援用した言語活動を通じて—



私は、学習の動機づけを高める要因について研究しています。授業実践を重ね、児童主体の授業へと意識が変容してきました。今年度は、英語を言えるようになりたいという児童の願いを大切に、CLIL という学習方法を取り入れました。多様な内容を英語で教え、英語で理解させるという授業形態は困難さが大きく、見直すべき点多々あります。今後は、児童の実態を考慮した上で、実施可能な CLIL 授業の在り方を探っていきたいと思っています。

**教科領域実践コース2年 高田 真那**  
テーマ：授業のユニバーサルデザインを通して、「参加する」から「理解できる」小学校国語科授業づくり

私は授業のユニバーサルデザインについての研究を行っています。昨年度の研究を踏まえて今年度の実践に取り組んできました。集中実習では「川とノリオ」という教材と向き合い、どのようにす



れば子どもたちに川とノリオの関係を理解してもらえるかを考えながら授業実践を行ってきました。中間報告会では集中実習での授業実践の考察と実習で得た学びや成果を報告したいと思っています。充実した報告会にできるよう頑張ります。

**教科領域実践コース2年 土田 康裕**  
テーマ：素朴概念を科学的概念に変容させるための授業づくり



私は、生徒がこれまでの生活経験の中で身に付けてしまっている科学的には不適切である「素朴概念」を、科学的に適切な「科学的概念」に変容させる授業を通し、日常的に周りの物事に対して批判的にとらえるおす力を養う研究を行っています。これまでの実践では、発問の仕方やワークシートの構成の仕方などを工夫してきました。中間報告会ではわかりやすい発表を行うとともに、改善点を見つけられるような発表にしたいと思います。

## 弘前大学教職大学院 公開セミナーのご案内

弘前大学教職大学院では、最新の教育課題について広く学校の先生方や教育関係者の皆様に学んでいただけるよう、公開セミナーを開催いたします。雪のためになかなか研修の機会を得にくい冬季に、完全オンラインで行います。今年度は、次の内容・日程で準備を進めています。今後、申込方法などの詳細をチラシ等にて各学校に広報させていただきますので、ぜひ参加をご検討ください。

- 2024年1月20日（土）13：00～14：40 講師：山本 晃史 氏（NPO 法人カタリバ）  
「学校のルールをどうつくるか—生徒との対話と改訂生徒指導提要—（仮）」
- 2024年1月20日（土）15：00～16：40 講師：森本 洋介 氏（弘前大学教育学部准教授）  
「デジタル社会におけるさまざまなリテラシー」
- 2024年2月3日（土）13：00～14：40 講師：藤江 玲子 氏（弘前大学教職大学院准教授）  
「子どもの回復力を育てる—学校で活かすストレス・マネジメント—」
- 2024年2月3日（土）15：00～16：40  
講師：最上 和幸 氏（青森明の星短期大学教授）  
「ヤングケアラーにどう対応するか—これからの福祉との連携—（仮）」

**〈編集・発行〉**

弘前大学大学院教育学研究科  
教職実践専攻（教職大学院）  
〒036-8560  
青森県弘前市文京町1番地  
Tel 0172-36-2111(代表)